

古いものと新しいものがとけあう、住みやすいまち

細川学区

HOSOKAWA



子どもたちから未来へのメッセージ 郷土への思い



平成 28 年度 細川小学校 6 年生
曾根 玲那さん

小さいころ、新しくできたさくら台団地に引っ越してきました。細川小学校で伝統あるチャラポコ太鼓に出会い、大好きになりました。とても楽しいので細川小学校の子で守っていきたいです。



平成 28 年度 細川小学校 6 年生
山本 夢大さん

ぼくの住んでいる奥山田にはしだれ桜、そして伝統の三河万歳があります。新しい住宅地ができ、小学生がどんどん増えています。これからも伝統を大切にしつつ、発展させていきたいです。



平成 28 年度 新香山中学校 3 年生
中根 有彩さん

用水路で泳ぐ黒メダカの群れ。水田のハウネンエビ。まばゆい青葉に目を細め、自転車を漕ぐ私の背中を押してくれる「いってらっしゃい」という地域の声。自然と温かさを実感できるまちが大好きです。



平成 28 年度 新香山中学校 3 年生
森 陽紀さん

ぼくはカヌー部に所属して巴川で仲間とともに練習に励んでいます。夢は、卒業後もカヌーを続け、いつかアジア大会に出場すること。ふるさと仁木の名を世界に轟かせてみせます。



編集後記

細川学区では、先人のたゆまぬ努力によって現在の豊かな生活環境が享受できています。将来を担う子どもたちの健やかな成長と、人と自然を基軸とした地域の発展を願い、学区内の様々な団体が心ひとつに「安全安心で住みやすい一体感のあるまちづくり」に努めています。まちものがたりの編集に協力いただいた方々にお礼申し上げますとともに、大勢の方が生活の一助にしていれば幸いです。(細川学区総代会 会長 太田 修)

〔作成委員会〕 太田 修/内田賢一/渋谷昌彦/石井完治/渡邊 勝/甫木孝輔/新井マユミ/山田芳樹/山本潔彦/市川庄治/奥平美代子/鈴木崇義/川部貴子/城 勝彦/近藤勝男/木村達雄/河合晶二/長坂和久/長坂隆市/塩田哲男/市川広一/大野稔久

〔参考資料〕 郷土読本 ほそかわ

〔表紙写真〕 (上) 学区のみなさんが集まる夏祭り。(下右) 夏祭りの産地直売。地元農家の方が育てた新鮮な野菜を手にとり、新興住宅の人々も自然に笑顔がこぼれます。(下左) 例大祭の餅投げ。子どもたちの元気な歓声がいつまでも続きます。自然環境に恵まれ、人々の温かい気遣いが元気と活力をもたらす一体感ある優しいまちです。

細川学区 まちのなりたち



1 かつて細川町内の県道上を走っていた挙母線の電車



3 昭和45年に完成した細川小学校の3階建て校舎



4 昭和47年より続けられている学区民体育祭

一八八一年・明治14 奥殿小学校の分校として、細川町字根古屋に小学校が開校

一八九二年・明治25 小学校が細川尋常小学校と改称

一九一六年・大正5 岡崎市制施行

一九二二年・大正11 細川尋常小学校が現在地(細川町字石田)に移転

一九二四年・大正13 県道岡崎足助線沿いに岡崎電気軌道(後の三河鉄道)が開通

(大樹寺―岩津―門立支線間を運行)

一九二九年・昭和4 三河岩脇―上挙母間に三河鉄道岡崎線

(後の挙母線)が開通: 1

一九三九年・昭和14 門立支線―三河岩脇間の三河鉄道が廃止

一九五五年・昭和30 岩津町が岡崎市に合併

細川尋常小学校が岡崎市立細川小学校と改称

細川保育園が開園: 2

機械金属関連の部品製造工場が操業開始

岡崎種畜牧場が開設(平成8年に閉鎖)

仁木県営住宅、細川団地の建設開始



2 細川保育園

DATA

人口	10,383人
男性	5,258人
女性	5,125人
世帯数	3,878世帯
面積	5.84km ²

[2016年7月1日現在]

自然豊かな細川学区

豊田市と隣り合う岡崎市北部に位置する細川は、東に村積山(↓地図C)、北と西に巴川と矢作川が流れるなど、緑と水に恵まれた自然豊かな学区。岡崎市村積山自然公園(↓特集)、北斗川の水遊びができる空間(↓地図D・特集)や桜並木など、自然を生かした整備が整っています。細川の地名の由来には諸説がありますが、矢作川の別名で、生活に密着した川だから親しみをこめて細川と名付けられたものと思われれます。

細川学区の主な産業

学区の産業は、かつて山あいや川沿いの水田、高台の果樹、野菜畑を活用した農業と養蚕業が盛んでしたが、昭和40年代に入ってから、市内や豊田市などで自動車関連の仕事に従事する人が多くなり、専業農家は減少しました。

さらに自然環境に恵まれた当学区では、住宅団地の建設が進んでおり、他地域から移り住んで企業に働きに出る人も急増。それまで一般商店と

暮らしにとけこむ伝統文化

古くからの伝統文化がいまも息づいている細川学区。地域の大切な文化を未来に残していくため、多くのみなさんが尽力しています。

手筒花火



仁木八幡宮で行われている荘厳な手筒花火

飾り馬



色鮮やかな飾りが目を引く、古村積神社の飾り馬

御殿万歳



細川小学校の郷土芸能クラブによる御殿万歳。新年を祝う伝統芸能である

チャラボコ



例大祭でチャラボコ太鼓を披露する子どもたち

細川学区の伝統文化が見られるのは、秋の例大祭神事。地元の愛好者による雅楽の演奏があるほか、祭事に合わせて仁木八幡宮(↓地図I)では手筒花火の打ち上げが、古村積神社(↓地図A)では飾り物を身にまとった飾り馬が境内を練り歩きます。

また、細川小学校には郷土芸能クラブ(↓年表7)があり、奥山田町に伝わる御殿万歳の伝承活動が行われています。さらに平成12年にはチャラボコクラブも発足。御殿万歳、チャラボコとともに各地の芸能祭で披露するなど、地域に伝わる文化の継承に努めています。

COLUMN 細川学区にはこんな言い伝えが:

細川(大王)龍神



いまも残されている細川龍神の碑

大正10年、自転車で大蛇を轢いてしまった住人がいました。大蛇は手厚い看病にもかかわらず死んでしまい、裏山に埋められたとい

います。ある晩のこと、御嶽大神のお告げがありました。

「あれは巴川の山野で数百年来の長命を保ってあった大蛇で、自分の霊を祈ってもらいたいと言ってお祈る。祈ってくれる者には、腰から下の病を治して恩に報いるそうじゃ」そこで人々は大蛇を細川龍神と名づけ、山の上に碑を建てて、未永く祀るようになったといわれています。

子どもたちは地域の宝

あいさつ運動 交通安全教室



細川学区は「児童の安全は地域のみならず」が合言葉。細川小学校の子どもたちによる「元気なあいさつ」は、学区の人々に元氣と勇気を与えています。

豊かな自然と触れ合う暮らし



施肥作業や草取りなど、地元の保存会が保護活動を行っている

私たちは、自然との共存で潤いと優しさ、明日への活力を享受しています。雄大なしだれ桜、ビオトープ、北斗川広場、岡崎市村積山自然公園など、いずれも学区民の誇りであり、日々の生活に欠かすことのできない宝です。

奥山田のしだれ桜は持統天皇が平和を願ってお手植えした桜と言い伝えられています。樹高は約15m、枝張りは東西に21m、南北に22mもあるエドヒガン種であり、昭和38年には岡崎市の天然記念物に、平成3年には「ふるさとの名木」にそれぞれ指定されています。毎年、桜の季節には、町民の主催で「しだ

れ桜まつり」と「桜写真コンクール」を実施。遠方からたくさんの見学者が訪れます。また、平成21年には、奈良県の薬師寺において保存会のみなさんが大切に育てた接ぎ木の植樹が行われ、千数百年の時を越えて里帰りを果たしました。

ビオトープ



さくら台住宅の西には、人と植物、生物との共生に向けたホタルビオトープがあり、町内会を主体とした保存活動が行われています。

北斗川広場



北斗台団地の中央を流れる北斗川の河川敷に、つくられている北斗川広場（↓地図D）。自然に親しみながら川遊びができる広場で、楽しく遊ぶ子どもたちの歓声が聞こえます。

岡崎市 村積山自然公園



村積山（↓地図C）には、奥山田町から村積山をめぐる自然緑道が整備されています。四季折々の美しさが満喫でき、地元民をはじめ市民の憩いの場となっています。

奥山田のしだれ桜



5 昭和59年に全9棟となった市営住宅仁木荘



7 郷土芸能クラブで御殿万歳を練習する子どもたち



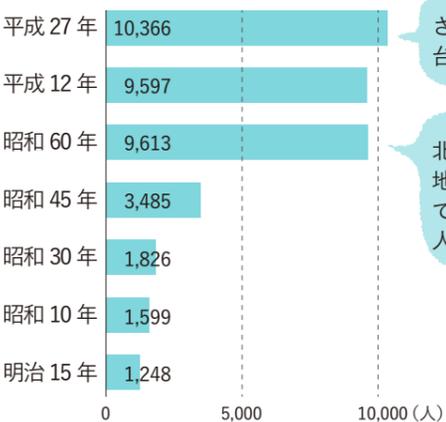
9 高台に造成された緑陽台の団地

- 一九七〇年 ■ 昭和45 県道岡崎足助線の整備完了
- 一九七一年 ■ 昭和46 北斗台団地の造成開始（平成28年で1100戸）
- 一九七二年 ■ 昭和47 細川小学校に鉄筋3階建校舎が完成
- 一九七三年 ■ 昭和48 第1回学区民体育祭を開催
- 一九七四年 ■ 昭和49 三河岩脇―上挙母間の名鉄挙母線が廃止
- 一九七六年 ■ 昭和51 国道248号の葵大橋が開通
- 一九八〇年 ■ 昭和55 市営住宅仁木荘8棟が完成（昭和59年に全9棟となる）
- 一九八二年 ■ 昭和57 岡崎市村積山自然公園の利用開始
- 一九九一年 ■ 平成3 細川学区市民ホームが開館
- 一九九五年 ■ 平成7 細川小学校で郷土芸能クラブが発足
- 二〇〇〇年 ■ 平成12 細川学区こどもの家が開館
- 二〇〇四年 ■ 平成16 巴川に新郡界橋が開通
- 二〇〇五年 ■ 平成17 細川小学校でチャラボコクラブが発足
- 二〇〇六年 ■ 平成18 さくら台団地の造成開始（平成28年で340戸）
- 二〇〇七年 ■ 平成19 細川児童育成センターが開館
- 二〇一二年 ■ 平成24 防犯と地域福祉組織が発足
- 二〇一二年 ■ 平成24 北斗台団地に名鉄バスが乗り入れ
- 二〇一二年 ■ 平成24 緑陽台団地の造成開始（平成28年で240戸）

細川学区の伝統文化

木工・建築関連が中心であった地域の産業も、現在では自動車部品を扱う企業が操業するなど大きく変貌しています。昔から盛大に行われていた地域のまつり。近年は環境の変化に伴って、その様子も変わりつつありますが、例大祭になると飾り馬、チャラボコ太鼓や手筒花火が現在でも行われています（↓特集）。また、細川小学校には郷土芸能クラブがつくられ、御殿万歳やチャラボコ太鼓の伝承に努めています。

学区人口の変遷



さくら台団地、緑陽台団地ができる

北斗台団地、細川団地、仁木県営住宅ができたことで、学区人口が急増



8 地域福祉組織のいきいき福祉活動



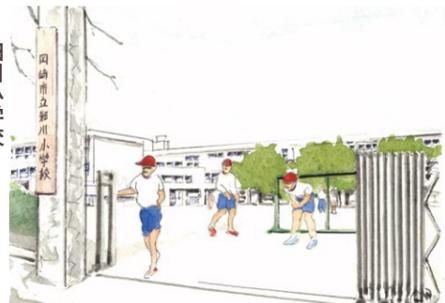
6 学区市民ホーム

細川学区まちなものがたりマップ

村積山の山頂からは雄大な岡崎平野を望み、素朴な中にも豊かな自然と数多くの歴史の跡があり、誰もが心癒されるまち。受け継がれた伝統と子どもたちの絶えることのない笑顔が、人と人を結びつけ、生活の味や地域の魅力となっています。



A 古村積神社
楽士(地域の奉仕者)の方々が奏でる厳粛で優雅な雅楽の元で祭事が行われている



B 細川小学校
豊かな自然と地域の愛情に育まれる中で、思いやりを大切にしながら学校生活が続けられている



C 村積山
山の姿が美しく景色優美なことから、地域の人々の心のよりどころとなっている



D 北斗川広場
河川敷にある広場では、休日になると友達同士で楽しく遊ぶ子どもたちの笑顔がいっぱいになる



E 石田第1号墳 2号墳
円墳が2つあり「ふたご塚」とも言われ、ほぼ原型のまま市指定史跡となっている



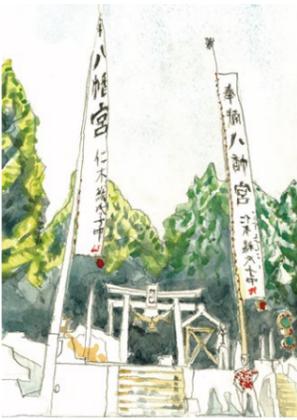
F 古墳公園
北斗台の住宅開発で発掘された島ヶ根古墳が、団地の公園に移転して復元されている



G 松明院
松平家菩提寺で浄土宗のお寺。天正10年(1582)、豊田市松平町から現在地に移された



H 細川城跡
足利一族の細川頼春による築城跡で、近隣の人々が草刈りなどを行っている



I 仁木八幡宮
10月最終日に行われる例大祭には、市内最大と言われている大のぼりが立つ

■イラスト画：城勝彦